

## 椿咲くころ：俳句

著者	井上，鐵人
雑誌名	龍南
巻	2 1 7
ページ	1 4 - 1 5
発行年	1931-03-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/7008">http://hdl.handle.net/2298/7008</a>

椿咲くころ

井上 鐵 人

ぬれ縁や雨降り止んで落葉降り

南天の赤う熟れたり日のあたる

道たづね寄る人に椿乞はるる

斑々山壁濃く残りの雪は

日南出ておのが影見るマスクの子

燕食うて齧齒氣になる此の寒さ

乾大根取り残されて朝の霜

魚賣りに魚切らする寒さ哉

不景氣に此の頃ふゆる鉢敲

莫大小をのばして縮め一口上  
(露店)

鞠ついて暮の一日を恙なう

芥火に鼻炙らせて議會の話

寄り沿うて花をつけたる藪椿

目白に目白來て椿は忘れられ

山茶花に來てゐる雀一羽哉